

1.プログラムの目的と特徴

2021 年度の入院実患者数 2643 名、小児外科入院 362 名と合わせ合計 3005 名と症例数が豊富であり、また、小児科各分野専門医(小児免疫・アレルギー、心臓・循環器、腎臓、感染、血液・腫瘍、内分泌・代謝、新生児・未熟児、神経)が全てそろい、各分野の専門的指導が受けられる。小児の基本的プライマリーケアができるようマスターしておくべき正常小児の発達、正常身体所見、血液検査、画像、生理検査等の正常値、診察する頻度が高いと考えられる小児疾患の診断、治療の基本の修得を目的とする。

1. できるだけ多くの入院患者を担当し、頻度の高い小児疾患(肺炎、扁桃炎、腸炎、腎盂腎炎、髄膜炎、熱性けいれん、てんかん、気管支喘息等)の問診、身体所見のとり方、検査の進め方、治療法を指導医の指導のもとに修得する。
2. 手技的に難しい小児の採血、点滴手技を指導医の指導のもとにできるだけ多く経験し、2ヶ月間の研修終了時には特殊な例を除き一人でできるよう研修する。
3. 新生児回診、外来乳幼児健診において指導医の診察を見学し、正常新生児、乳幼児の身体所見、発達を学ぶ。
4. 小児の年齢とともに変化する身体診察正常所見、血液検査、画像検査、生理検査の正常値に関し、小児科各領域専門医の講義を受け修得する。
5. 小児アレルギー、免疫、心臓・循環器、腎臓、感染、血液・腫瘍、内分泌・代謝、新生児・未熟児、神経疾患等の各自興味のある領域の疾患については、それぞれの専門外来の診察を見学する。

2.指導体制

主として日本小児科学会専門医の資格を有するスタッフが日々の指導を行なう。入院患者については指導医の指導のもとに担当医として診療にあたる。毎日のカンファレンスにて、担当した患者の疾患の領域の専門医が指導を行なう。

3.指導体制

I. 一般目標

小児の基本的プライマリーケアができるようマスターしておくべき正常小児の発達、正常身体所見、血液検査、画像、生理検査等の正常値、診察する頻度が高いと考えられる小児疾患の診断、治療の基本の修得

II.経験目標

a. 研修終了時には下記の項目については、自らあるいは指導医の指導のもとに実施できるようになることを目標とする

1. 身体計測
2. 検温
3. 小奇形の観察
4. 血圧測定
5. 前彎試験
6. 透光試験(陰のう)
7. 鼓膜検査
8. 鼻腔検査,鼻出血の止血
9. 注射(静脈,筋肉,皮下,皮内)
10. 採血(毛細管血,静脈血,動脈血)
11. 導尿
12. 骨髄穿刺
13. 洗腸(高圧)
14. エアゾール注入

15. 酸素吸入
16. 小さい外傷,膿瘍などの外科的処置
17. 点滴静注
18. 簡易静脈圧測定
19. 光線療法
20. 蘇生(人工呼吸,閉胸式心マッサージ,気管内挿管,除細動)
21. 消毒,滅菌法

b.経験を有し,指導医の指導があれば実施できる

1. 輸血
2. 交換輸血
3. 呼吸管理
4. 経静脈栄養
5. 胃洗浄
6. 経管栄養法
7. 腰椎穿刺
8. 腸重積整復術
9. 鼠径ヘルニアの還納

4.教育課程

☆**臨床カンファレンス**:毎日、早朝、入院中の患者のなかから研修上有意義な症例について、検査、治療等につき検討し、指導医、各専門医の指導を受ける。

☆**病棟カンファレンス**:週1回、病棟入院患者全員の症例検討を行い、担当医として、プレゼンテーションを行う。

☆**各専門医によるレクチャー**:研修開始時、また、研修上有意義な症例の担当医となった場合適宜レクチャーを受ける。

☆**他科の専門カンファレンス**:血液鏡検カンファレンス(毎火曜日)、腎臓カンファレンス(隔週の月曜日)、放射線画像読影カンファレンス(毎日)に出席する。

☆院外および他科の講師による講演会

☆院内集談会(年2回)での発表

☆小児科学会および関連学会・研究会での発表と、発表症例の論文作成を行う。

＊小児科週間予定・特殊外来 およびカンファレンス		
	午前	午後
月曜日	臨床カンファレンス	1 診 血液・腫瘍外来
	心臓カテーテル検査	2 診 神経外来
火曜日	臨床カンファレンス	1 診 循環器外来
	2 診 神経外来	2 診 乳児検診
		3 診 アレルギー・免疫外来
	5 診 循環器外来	4 診 神経外来
水曜日	臨床カンファレンス	1 診 夜尿・腎臓外来
		2 診 アレルギー・免疫外来
		3 診 血液・腫瘍外来
		4 診 神経外来 ワクチン外来
木曜日	臨床カンファレンス	1 診 内分泌・代謝外来

		2 診 新生児・未熟児外来
		3 診 神経外来
		NICU カンファレンス
金曜日	臨床カンファレンス	1 診 循環器外来
	NICU 回診、カンファレンス	2 診 免疫・アレルギー外来
	5 診 循環器外来	3 診 神経外来
		4 診 新生児・未熟児外来
		病棟カンファレンス 循環器カンファレンス

5.評価方法

小児科研修時の指導にあたった研修指導医の意見を参考に、統括責任指導医にあたる小児科部長により行なわれる。担当研修指導医、統括責任指導者との面談を通して、知識の習得、診療技能、検査の実施または解釈、診療態度につき評価を受ける。